

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第8回女性参画推進専門委員会の概要について

1 開催概要

- (1) 日時 平成29年 3月15日 (水) 14:00~16:00
エスポワールいわて 3階 特別ホール
- (2) 出席者 委員13名 (1名欠席)
- (3) 審議事項等
(議事) 復興実施計画 (第3期) 案について
(報告) 復興庁男女共同参画班の取組について

2 審議概要

復興実施計画 (第3期) 案について

[赤坂委員]

- ・ 女性が参画しやすい環境づくりの例として、子供を預かる場所を設けて説明会等を開催する方法も考えられる。

[大沢委員]

- ・ 野田村の都市公園を官民協働で管理することになったが、住民参画を進めるため、アドバイザーの派遣など支援を行っていただきたい。

[神谷委員]

- ・ 震災で十分に学校に通うことができなかった若者 (18~25歳くらい) の中には、心にトラブルを抱えている人も多いと感じる。このような若者が支援から漏れているのではないか。学校卒業後2年間は学校の保健室でこのような人の相談に対応できるようなシステムがあっても良いのではないか。
- ・ 釜石市に「地域こころのケアセンター」があることは知られていない。被災地は情報で溢れているので、必要な人にピンポイントで情報を届けることが必要である。
- ・ 復興実施計画の周知をステップとして女性参画を進めたいが、そのためには、日頃から女性と行政が関わりを持つ機会を作るべきである。

[木村委員]

- ・ 防災教育を実施する際、震災に対するトラウマを持った子供に配慮してほしい。

[高橋委員]

- ・ 女性が参画しやすい環境づくりの例として、女性を対象とした説明会などを開催する方法も考えられる。

[平賀委員]

- ・ 地域説明会への女性の出席割合は、現在の女性が参画しにくい環境においては十分な割合だと思う。さらに女性参画の取組を進めるには、男性の参加も不可欠である。

[藤澤委員]

- ・ 被災地における医療関係従事者への支援は良い取組である。介護士や保育士などの専門職への支援も復興には必要な取組である。
- ・ ユニバーサルトイレの整備等も今後重要となってくる。

[村松委員]

- ・ 復興教育副読本を活用し、子供たちの視点による防災教育を行うことが重要ではないか。

[盛合委員]

- ・ 次の災害への備えとして、避難誘導の看板などを早急に設置する必要がある。
- ・ 地域コミュニティの課題はコーディネーターやアドバイザーだけに頼るのではなく、地域の人が自ら解決していかなければならない。

[山屋委員]

- ・ 見せ方の問題ではあるが、復興実施計画に市町村や現場の意見が十分に反映されていることが分かるよう、復興実施計画を分かりやすい言葉で説明した資料があると良い。

[両川委員]

- ・ 復興支援で生まれた子供の遊び場がなくなっている。子供が遊べる環境も震災前よりも良いものとしてほしい。
- ・ 震災の影響により、沿岸地域における子供の肥満割合が2～3割高くなっているため、対応していく必要がある。
- ・ こころの問題は複合的な問題である。行政だけではなく、複合的なケア体制を自分たちで作っていく必要がある。

[菅原委員長]

- ・ 復興実施計画が浸透するように、さらに女性が参画しやすい環境を作っていただきたい。
- ・ 「被災地コミュニティ支援コーディネート事業」について、被災者のコミュニティ形成の主体は市町村であることは分かるが、コーディネーターの配置数が少なく感じる。
- ・ 復興実施計画を周知していく際には、誰に理解してもらいたいのかの視点を大事にしてほしい。みんなが良く分かるものにしてほしい。